

1 単元名 文字の組み立て方を考えて書こう 「湖」

2 単元目標

- 3つの部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。
- 3つの部分の組み立て方や筆使いに気をつけ、書くことができる。
- 横幅や高さなど3つの部分の組み立て方について理解している。

3 単元について

(1) 単元のねらい

本単元は、3年生から学習してきた文字の組み立て方について学習する。漢字の組み立て方については、これまでに左右・上下・内外の組み立て方について学習してきた。本単元では「3つの部分の組み立て方」を主教材として、文字の組み立て方を正しく理解し、字形を整えて書くことができるようにすることをねらいとしている。毛筆で大きく書くことによって、3つのそれぞれの部分の幅や高さの変化を理解できるようにしたい。

「湖」を書く際には、縦三分割にしたそれぞれの部分をさらに細長くして接近させる。3つの部分のどの部分を高く書くか、また、どの部分を狭く書くかを考え、字形を整えて書くことができるようにしたい。

また、3つの部分の組み立て方について学習したことを正しく理解できているか、学習したことを他の文字にいかすことができるかを確認するため、「街」を設定した。「街」を書く際には、「ぎょうにんべん」の2つのはらいの方向や「圭」の最終画の筆使いに気をつけて書くことができるようにしたい。

「湖」「街」の文字を毛筆で学習した後、3つの部分からできている漢字を組み立て方に気をつけて硬筆で書く。いろいろな組み立て方の文字を取り上げることで、3つの部分のさまざまな組み立て方を理解できるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童（33名）は、書写学習の際に手本をよく見て、字形を整えて書こうと努力している児童が多い。しかし、毛筆の筆使いや字形を整えて書くことに苦手意識をもっている児童がいる。また、日常の書字活動では、マス目からはみ出すような文字を書いたり、字形が整わなかったりするなど、書写学習で学んだことを日常の書字活動にいかそうとしている児童は少ない。

言語コミュニケーションについては、クラス全体など大勢の場になると自信がもてず、自分の考えを表現しにくい児童がいる。しかし、ペアトークやグループトークなど少人数であれば自分の意見や考えを伝えることができる児童が多い。また、ペアトークなどを通して自分の考えに友達の意見を取り入れ、よりよい考えにしようとする姿も見られ始めた。そのため、本単元では練習後にペアトークを取り入れお互いのよい点や改善点を伝え合うことで、友達の意見を取り入れよりよい字をまとめ書きできるようにさせたい。

(3) 指導にあたって

練習では16分割の線が入った手本と下敷きを使用する。16分割の線があることで、始筆や終筆の位置をお手本と比べたり、点・画のつながりを確認したりすることがより細やかにできると考えた。また、用紙に対する文字の大きさや1文字を書く位置についても捉えやすいと考えた。まとめ書きでは試し書きとまとめ書きを比べることで、自己の伸びを感じたり、新たな課題を見つけたりすることができるようにしたい。

本時では、導入で字形の整っていない作品（3つの部分の横幅が広いもの・3つの部分の高さがそろっていないもの・「さんずい」の間隔や位置がずれているもの）を提示することで、3つの部分の組み立て方について考えることができるようにしたい。また、試し書きとお手本を比べることで、自分のめあてをつかむことができるようにする。そうすることで、よりよい字にするためにはどこに気をつけて書けばよいか、自分の

めあてを意識して練習することができるようにする。

ペアトークでは、友達の作品のよい点にはピンク色、改善点には黄色のシールを貼って伝え合うことで、まとめ書きをするときによい点や改善点を視覚的により意識できるようにしたい。

4 単元の構想表

時	学習活動	期待する反応	評価規準
1	3つの部分の組み立て方を理解して、「湖」を書く。 (本時)	○組み立て方の悪い作品から、「湖」の3つの部分の組み立て方を考える。 ・3つの部分の始筆の位置がそろっているとおかしいな。 ・さんずいの3画目の向きは、かなり上向きだな。 ○組み立て方に気をつけて「湖」を練習する。 ・「古」の始筆を6の位置から始めるといいな。 ・「冫」の3画目の向きに気をつけよう。	【知】横幅や始筆の位置など、3つの部分の組み立て方を理解している。 【技】「冫」「古」「月」の3つの部分の組み立て方に気をつけて書くことができる。
2	「湖」で学習したことをいかし、「街」を書く。	○点・画ピースを組み立てることで、「街」の3つの部分の組み立て方を考える。 ・「圭」の横画の始筆と終筆の位置に気をつけて書こう。 ・3つの部分をゆずり合って書くと、バランスのよい字になりそうだな。 ○3つの部分でできている漢字を想起し、組み立て方を考える。 ・「術」という字は「街」と同じぎょうにんべんだから、左下はらいに気をつけたらよさそうだな。 ・「樹」は3つの部分を縦長に書くと、字形が整った字が書けそうだな。	【技】3つの部分の組み立て方に気をつけて「街」を書くことができる。 【知】「湖」で学習したことをいかし、「街」の3つの部分の組み立て方について理解している。
3	いろいろな3つの部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で書く。 (側・勇・桜・雑・箱・努)	○3つの部分のいろいろな組み立て方を考える。 ・「努」は上2つの部分(女・又)と下の部分(力)の3つに分かれるんだな。 ・縦3つの部分に分かれる字も、文字によって組み立て方がちがうな。 ○いろいろな3つの部分の位置関係や大きさのちがいに気をつけて書く。 ・「働」の字は「力」を下げて書くとよさそうだな。 ・「勇」の字は横3つの部分に分かれ、「マ」の部分の縦幅をせまく書いたらよさそうだな。	【関】3つの部分のいろいろな組み立て方に気をつけて書こうとしている。 【知】3つの部分のいろいろな組み立て方を理解している。

5 研究主題と本時とのかかわり

互いに表現し合い、自分の考えをもつ子どもの育成

(1) 友達と共感しながら関わっていく学級づくりの手立てと支援

○朝の会のスピーチでは、最後にスピーチ内容に関するクイズをすることで、聞き手が最後まで注意して相手の話を聞くことができるようにする。また、話し手は聞いてもらえているという安心感を味わうことができるようにする。→本時の「ペアトーク」時につながる手立て

○クラス日誌に友達やクラス全体の頑張りを書かせ、「今日の BEST」として取り上げ掲示する。そうすることで、友達やクラスのよさに目を向けることができるようにし、視覚的にとらえられるようにする。

→本時の「ペアトーク」での他者評価につながる手立て

(2) 授業の中で、発達段階に合ったコミュニケーション能力を育てるための手立てと支援

6年生の目指す子どもの姿：価値的な判断をしながら共に創り上げていこうとすることができる。

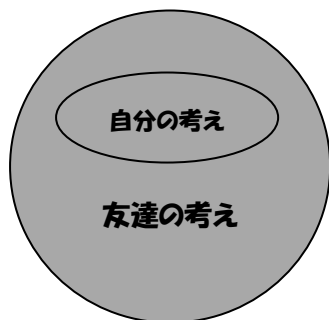
○めあての前に3つの組み立て方の悪い作品を提示し、話し合う活動を取り入れる。その際に悪い点を出し合い、どこを直せばよいかを話し合うことで、3つの部分の組み立て方について理解できるようにする。

○よい点にはピンク色、改善点には黄色のシールを貼ってペアトークをすることで、自分の作品のよさや改善点に気づくことができるようにする。また、お互いのよい点や改善点を伝え合うことで、まとめ書きでより字形の整った文字を書こうという意欲へとつなげていくことができるようにする。

(3) 自分の考えをもてた子どもの姿

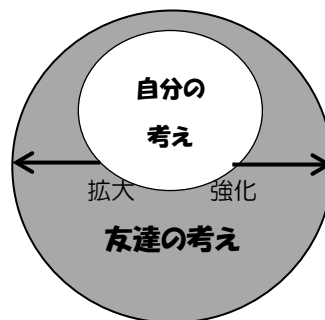
(ア) 研究主題：互いに表現し合い、自分の考えをもつ子どもを次のように仮定する。

レベル① 0タイプ



自分の考えをもてない0の状態から、友達の考えを聞いて何らかの考えをもてた子ども

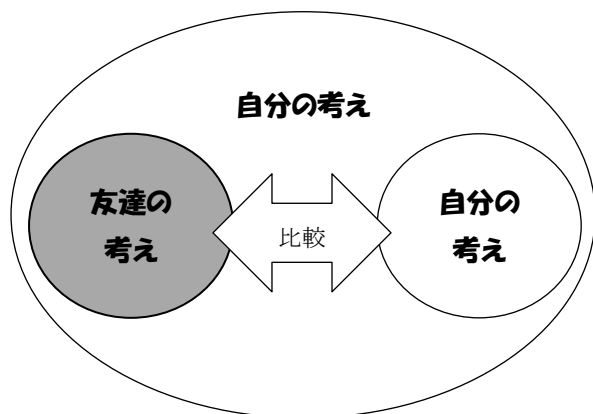
レベル② 拡大・強化タイプ



自分の考えをもててはいるが、友達の考えを聞いて考えの幅が広がった子ども。

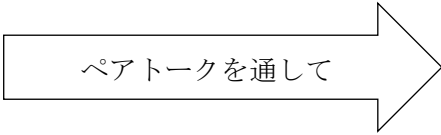
自分の考えに不安がある状態から、友達の考えを聞いて自信がもてた子ども。

レベル③ 再構築タイプ



自分の考えをもっていたが、友達の考えを聞いて自分の考えと比べて考え直し、よりよい考えへと変わった子ども。

(イ) 本時における各レベルでの子どもの姿

	練習	ペアトーク	ペアトークやまとめ書き
① 0	※本時においては、このタイプはいないと思われる。	・友達によさを認めてもらうことで、さらに自信をもっている。 ・友達にアドバイスをしてもらうことで、新たな課題に気づいている。 ・友達のよさや課題をアドバイスすることで、自分の作品と比べて考えている。	
② 拡大・強化	自分のめあてを意識して練習し、試し書きと比べている。	 ペアトークを通して	「〇〇さんにアドバイスをしてもらって、よくなったところがあった。」(自信)
③ 再構築	自分の作品のめあてを意識して練習し、試し書きと比べてよくなったところや新たな課題を見つけている。	「試し書きと比べると、上手に書けたよ。」 『『古』の高さに気をつけたから、3つの部分のバランスがよくなったよ。」 「上手になっているけど、『さんずい』の3画目をもう少し上向きにするといいよ。」	「〇〇さんにアドバイスをもらって、次に気をつけた方がよいところに気づくことができた。」 「〇〇さんが言っていた～は、私もできていないから気をつけたい。」(再構築)

6 本時案

目標	自分のめあてを意識して練習したり、友達とそれぞれが書いた文字のよい点や改善点を伝え合ったりすることで、3つの部分の組み立て方に気をつけて書くことができる。	
学習活動		指導上の留意点
1 正しい姿勢を確かめ、試し書きをする。	○書写の合い言葉「びん・ぺた・ぐうでひじあげて」から正しい姿勢を想起させ、「湖」の筆順を確認する。	
2 本時のめあてをつかむ。	○3つの部分の組み立てのバランスが悪い作品を提示することで、3つの部分の組み立て方を意識できるようにする。 ・3つの部分の高さ（始筆の位置） ・「丷」の点の間隔や位置、つながり	
3つの部分の組み立て方に気をつけて書こう。		
3 自分のめあてをつかむ。	○試し書きと手本とを比べることで、自分のめあてをつかむことができるようにする。 ○手本に自分のめあてを書かせることで、めあてを意識して練習することができるようにする。	
4 「湖」を練習する。	○範書の動画を見ることで、どんなところに気をつけて書けばよいか意識できるようにする。 ○3つの部分の始筆や終筆の位置を意識して書くことができるよう、16分割の手本や下敷きを使って練習する。 ○範書の動画をながしておくことで、筆使いの確認をしながら書くことができるようにする。 ○机間指導しながら、よくできているところを称揚したり、めあてや筆使いについて助言したりする。	
5 話し合い、考えを深める。	○作品のよい点や改善点にシールを貼りペアトークすることで、自分の作品のよさや課題に気づくことができるようにする。 ○ペアトークの際に自分のめあてを相手に伝えることで、視点をもって友達の作品を見ることができるようにする。 ○全体場で作品のよいところや改善点を共有することで、まとめ書きにいかすことができるようにする。	
6 本時のまとめをする。	○まとめ書きの前にめあてを確認することで、自分のめあてに気をつけながらまとめ書きすることができるようにする。 ○試し書きとまとめ書きを比べることで、自己の伸びに気づいたり、自分のめあてに近づいた作品ができたかを振り返ったりすることができるようにする。	
3つの部分の組み立て方に気をつけると、字形の整った文字を書くことができる。		

評価	○横幅や始筆の高さなど， 3 つの部分の組み立て方を理解している。【知識・理解】 ○ 3 つの部分の組み立て方に気をつけて書くことができる。【技能】

7 板書計画

まとめ書き

ペアトーク

よい点…ピンク
改善点…黄色

「」の三画目の向き

「古」の始筆を上げる。



三つの部分の組み立て方に気をつけて書く